

安全データシート

発行日 2021/4/1

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	炭酸カリウム
供給者の会社名称、住所及び電話番号	
会社名	シンライ化成株式会社 化学品部
住所	東京都千代田区内神田 3-24-3 V O R T内神田
電話番号	03-3256-2011
F A X 番号	03-3256-2015
推奨用途及び使用上の制限	
推奨用途	工業原料、食品添加物

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

物理化学的危険性	可燃性固体	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	区分に該当しない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2 A
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期（急性）	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期（慢性）	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語	警告
危険有害性情報	
H302	飲み込むと有害。
H315	皮膚刺激性。
H319	強い刺激性。

注意書き

安全対策

取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

保護手袋を着用すること。

応急措置

飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当を受けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当を受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管

直射日光が入らない、涼しく乾燥した場所に貯蔵すること。

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

廃棄

内容物/容器を現地、地域、国、国際規則に従って廃棄すること。

GHS 分類に関係しない又は GHS で扱われない他の危険性

知見なし。

その他の情報

なし。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

重要な徴候

重度の眼刺激。症状には、刺すような痛み、流涙、充血、はれ及び眼のかすみなどがある。皮膚刺激性 充血と痛みを起すことがある。

非常事態の概要

飲み込むと有害。強い刺激。皮膚刺激。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学物質

官報公示整理番号

化学名又は一般名	CAS 番号	化審法	安衛法	含有量(%)
炭酸カリウム	584-08-7	(1)-153	(1)-153	>=99

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動する。

呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

症状が悪化したり継続したりする場合は医師に連絡する。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類すべてを直ちに脱ぐ。

	<p>多量の水で洗うこと。</p> <p>拭き取りに溶剤、シンナーは使用しないこと。</p> <p>皮膚を流水/シャワーで洗うこと。</p> <p>刺激が強まったり続く場合には医師の手当てを受ける。</p> <p>汚染された衣類を再利用する場合には洗濯をすること。</p>
眼に入った場合	<p>直ちに多量の流水で最低 15 分間眼を洗浄する。</p> <p>コンタクトレンズをしていて容易に取り外せる場合は取り外す。</p> <p>直ちに、まぶたの内側も含め、多量の水でゆすぐ。</p> <p>その後も洗浄を続けること。</p>
飲み込んだ場合	<p>直ちに医師に連絡すること。</p> <p>口をすすぐこと。</p> <p>医師の指示なしに無理に吐かせないこと。</p> <p>もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。</p>
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	<p>医療スタッフに物質が何であるかを伝え、自身の保護措置にも気をつけさせる。この安全データシートを担当医に見せる。</p>
医師に対する特別な注意事項	<p>一般的な処置および症状にあわせた適切な治療を施す。被災者を保温する。被災者の観察を続ける。症状は遅れて出てくることがある。</p>

5. 火災時の措置

適切な消火剤	<p>製品自体は燃焼しない。</p> <p>周辺の物質の火災に適した消火剤を使う。</p>
使ってはならない消火剤	なし。
火災時の特有の危険有害性	火災の際は健康に有害なガスが生成されることがある。
特有の消火方法	危険でなければ、火災区域から容器を移動させる。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	高温になると分解して、二酸化炭素を生じ、多量の二酸化炭素を生じた場合は、その場に居合わせた者が、窒息死する恐れがあるので、空気呼吸器及び全身保護衣を着用する。
一般的な火災の危険性	異常な火災や爆発の危険性は知らされていない。
特定の消火方法	通常の手順を用いる。影響を受けた他の物質の有害性を考慮する。可燃性のものを周囲から取り除く。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	<p>関係者以外の立ち入りを禁止する。</p> <p>こぼれや漏れが起きている場所から関係者以外を遠ざけ、風上に避難させる。</p>
-----------------------	--

	<p>清掃中は適切な保護具及び防護服を着用する。</p> <p>適切な保護衣を着用せずに、壊れた容器または流出物に触らない。</p> <p>十分な換気を確保する。</p> <p>個人用保護具については、本 SDS の項目 8 を参照。</p>
環境に対する注意事項	下水や水路、地面への排出を避ける。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材	<p>大量の漏出：</p> <p>可能な場合は漏出物をせき止める。</p> <p>シャベルを使って乾燥した金属製容器入れる。</p> <p>製品回収後、その付近を水で洗い流す。</p> <p>少量の漏出：</p> <p>吸収材（例：布、フリース）で拭き取る。</p> <p>残った汚染物を除去するため、床を徹底的に清掃すること。</p> <p>絶対に流出物を元の容器に回収して再使用してはならない。</p> <p>廃棄物の廃棄方法については、本 SDS の項目 13 を参照。</p>

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策（局所排 気、全体換気等）	適切な換気を行う。
安全取扱い注意事項	<p>味を見たり飲み込んだりしてはならない。</p> <p>眼、皮膚、衣服への接触を避ける。</p> <p>長時間の接触を避ける。</p> <p>使用中は飲食や喫煙をしない。</p> <p>取扱い後は手をよく洗うこと。</p> <p>産業衛生に気を配る。</p> <p>取扱い後は手、顔などはよく洗い、休息所等に手袋などの汚染防具を持ち込まない。</p> <p>本 SDS の項目 8 で推奨されている個人用保護具を使用すること。</p>
接触回避	<p>酸。酸化剤。</p> <p>詳細については、本 SDS の項目 10 を参照。</p>
衛生対策	<p>飲食物から遠ざける。本物質を取扱った後、飲食や喫煙をする前に手を洗うなど、常に適切な衛生措置をとる。本物質を取り除くために定期的に作業着と保護具を洗う。</p>
保管	
安全な保管方法	容器を密閉しておくこと。混触禁止物質から話して保管すること

(本 SDS の項目 10 を参照)。

安全な容器包装材料 元の容器に密閉して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等 データなし。

暴露限界値

ACGIH

成分	タイプ	数値
炭酸カリウム (CAS584-08-7)	TWA	3mg/m3

コメント：吸入される浮遊微粒子

設備対策 適切な全体的換気を行分ければならない。換気状況は回数に合わせる。暴露限界値が設定されている場合は、密閉装置、局所排気装置その他の装置により、空気中の濃度を適切な濃度以下に抑える。洗眼設備及び安全シャワーを設置する。

保護具

呼吸用保護具 換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。

防塵マスク (国家検定品) を着用する。

手の保護具 適した耐化学薬品性の手袋を着用しなければならない。

眼、顔面の保護具 サイドシールドのついた安全眼鏡 (またはゴーグル) を着用する。

皮膚及び身体の保護具 不浸透性エプロンの使用が望ましい。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 固体

形状 粉体

色 白色

臭い 無臭

融点/凝固点 891°C (1635.8 ° F)

沸点又は初留点及び沸点範囲 データなし

可燃性 データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

爆発限界－下限 (%) データなし

爆発限界－上限 (%) データなし

引火点 データなし

自然発火点 データなし

分解温度 データなし

pH データなし

同粘性率	データなし
溶解度	
溶解度（水）	52.5%（25°C）
n-オクタノール/水分	
配係数（log 値）	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	
密度	2.29 g/cm ³
比重	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他の情報	
爆発性状	爆発物ではない
可燃性	不燃性
分子式	CO ₃ K ₂
分子量	138.21g/mol
酸化能力	酸化性ではない

10. 安定性及び反応性

反応性	強酸と激しく反応する。本生成物は酸化剤と反応する恐れがある。
化学的安定性	通常状態で安定。
危険有害反応可能性	一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
避けるべき条件	混触危険物質との接触。他の化学薬品と混合してはならない。
混触危険物質	酸。酸化剤。
危険有害な分解生成物	危険有害な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

急性毒性 飲み込むと有害

成分	種	試験結果
炭酸カリウム（CAS 584-08-7）		
急性		
経口		
LD50	ラット	1870mg/kg
皮膚腐食性/刺激性	皮膚刺激	
刺激性腐食性－皮膚		
炭酸カリウム	区分2	

眼に対する重篤な損傷性/ 強い刺激

眼刺激性

刺激性腐食性－眼

炭酸カリウム 区分 2A

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない

皮膚感作性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない

生殖細胞変異毒性

生殖細胞変異原性：エームス試験

炭酸カリウム (OECD471) 結果：陰性

発がん性 日本産業衛生学会、ACGIH、NTP、IARC のいずれも記載なし

生殖毒性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない

特定標的臓器毒性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない

(単回ばく露)

特定標的臓器特性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない

(反復ばく露)

誤えん有害性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない

12. 環境影響情報

環境影響データ

製品		種	試験結果
炭酸カリウム			
水性			
急性			
甲殻類	EC50	ニセネコミジンコ (Ceriodaphniadubia)	630mg/l,48 時間

成分		種	試験結果
炭酸カリウム (CAS 584-08-7)			
水性			
急性			
甲殻類	LC50	ニセネコミジンコ (Ceriodaphniadubia)	630mg/l,48 時間
魚類	LC50	ファットヘッドミノー (Pimephalespromelas)	<750mg/l,96 時間

生態毒性 漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接

残留性・分解性	流れないように対処すること。 この物質の分解性に関して利用可能データはない
生態蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
他の有害影響	その他の環境悪影響（例、オゾン層破壊、光化学オゾン生成可能性、内分泌かく乱、地球温暖化の可能性）はこれらの成分からは予想されない

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	<p>現地の規定に従い、処分する。</p> <p>空の容器または内張には製品残渣が残っている恐れがある。この物質及びその容器は、安全な方法で廃棄しなければならない。</p> <p>攪拌しながら、水を加えて希薄な水溶液にして、酸（希塩酸、希硫酸など）で中和させた後、大量の水で希釈して処理する。</p> <p>濃度の濃い酸で中和すると、発熱が大きく、また二酸化炭素ガスの発生が激しくなり、液が容器から噴き出すことがあるので、必ず薄い溶液で中和することが必要である。</p> <p>廃アルカリは、特別管理産業廃棄物に指定されているので、収集、運搬、処分は定められた基準に従って処理すること。</p>
汚染容器及び包装	<p>製品の残余物が残っているかもしれないので、容器が空になった後もラベルの警告に従う。</p> <p>空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、承認された廃棄物処理施設に運ばなければならない。</p>
地域の廃棄規制	<p>廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。内容物/容器を現地、地域、国、国際規則に従って廃棄すること。</p> <p>自社で排水処理装置を所有していない場合は、全量回収の上、廃棄物処分業の許可を受けた業者に、廃棄物管理票（マニフェスト）を添えて、処理を委託する。</p>

1 4. 輸送上の注意

IATA	危険物には該当しない
IMDG	危険物には該当しない
MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによる ばら積み輸送される液体	該当しない

物質

一般情報	消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。 船舶安全法に定めるところに従うこと。 航空法の定めるところに従うこと。
国内規制	国内輸送については15章の規制に従うこと。
輸送又は輸送手段に関する特別な安全対策	取扱いの前に安全指示、SDS及び応急処置法を読むこと。 運搬に際しては、容器を40℃以下に保ち、転倒、落下、損傷がないように注意すること。

15. 適用法令

労働安全衛生法

通知対象物	該当せず
表示対象物	該当せず

毒物及び劇物取締法

特定毒物	該当せず
毒物	該当せず
劇物	該当せず

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律

第一種特定化学物質	該当せず
第二種特定化学物質	該当せず
監視化学物質	該当せず
優先評価化学物質	該当せず
届出不要物質	該当せず

化学物質排出把握管理促進法

特定第一種指定化学物質（物質名、政令番号、含量）	該当せず
第一種指定化学物質（物質名、政令番号、含量）	該当せず
第二種指定化学物質（物質名、政令番号、含量）	該当せず

船舶安全法・危規則	該当せず
航空法・施行規則	該当せず
火薬類取締法	該当せず

海洋汚染防止法

炭酸カリウム溶液（他の海洋環境の保全の見地から有害である物質 Y 類 又は有害でない物質と混合している状態で輸送されるものに限る。

炭酸カリウム溶液（濃度が五十重量パーセント以下のものに限る。
Z 類

16.

引用文献

ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices

HSDB®-Hazardous Substances Data Bank

IARC 発がん性評価モノグラフ

National Toxicology Program(NTP)Report on Carcinogens

日本産業衛生学会、許容濃度の勧告

日本化学工業協会 GHS 対応ガイドライン

JIS Z 7252 : 2014GHS に基づく化学品の分類方法

JIS Z 7253 : 2012GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法
-ラベル、作業内の表示及び安全データシート (SDS)

記載内容は現時点で入手できた資料、情報をデータに基づいて作成していますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性などに関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の実施を前提としたものなので、特殊な取扱いの場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、利用してください。